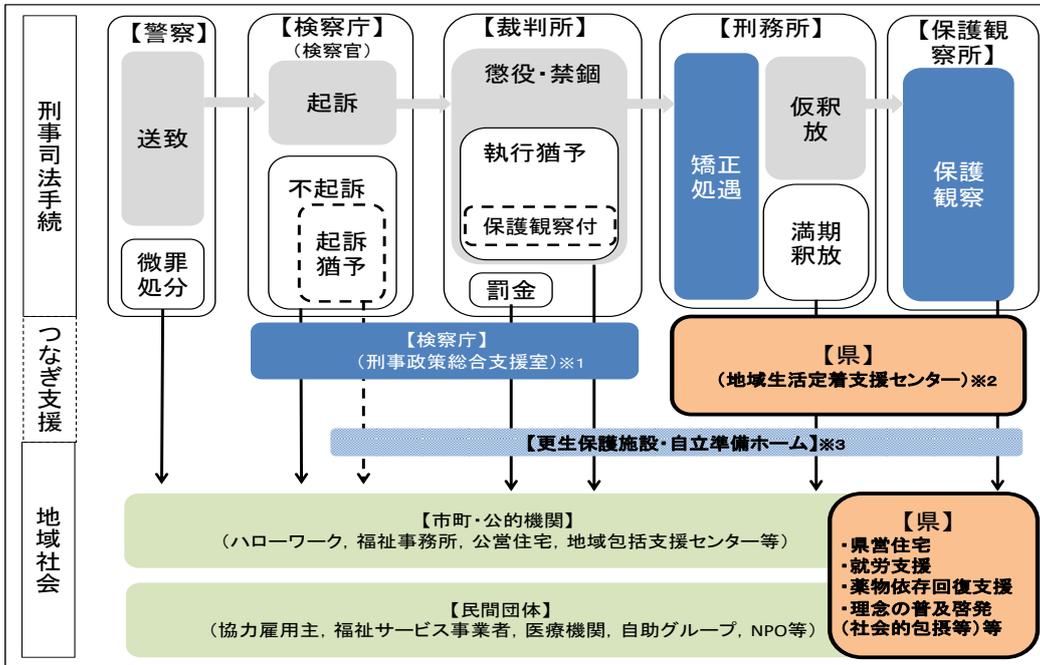


## 第2章 犯罪・非行をした者の状況等

### 1 刑事司法手続きと地域支援の流れ

#### ○ 現在の制度（成人）



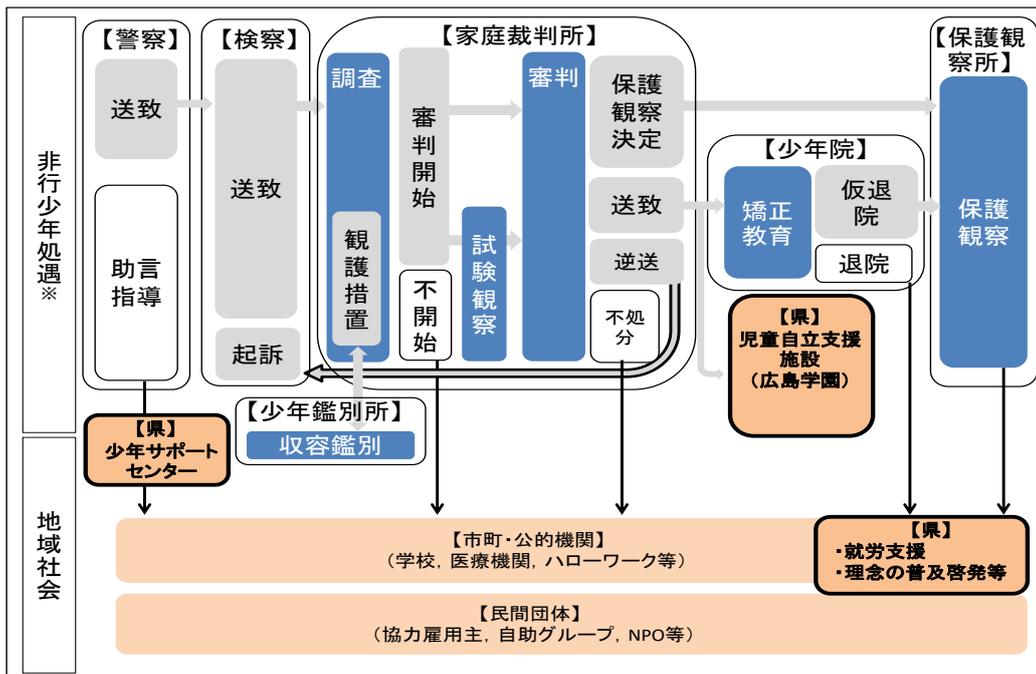
本人承諾の下,

※1 起訴猶予者等のうち、高齢・障害・住居不定等により自立した生活が困難な者に対し、福祉等の利用調整を実施

※2 刑事施設出所者のうち、住居のない、高齢・障害により自立した生活が困難な者に対し、福祉等の利用調整等を実施

※3 住居のない保護観察対象者等に対し、一定期間、宿泊場所や食事を提供

#### ○ 現在の制度（少年）



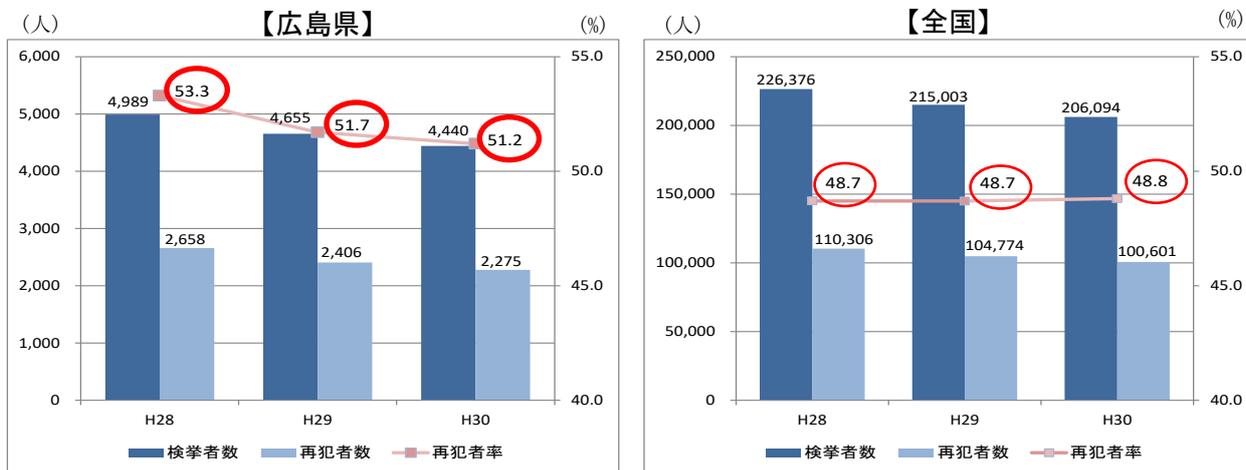
※ 14歳以上の罪を犯した少年の処遇を表す。

## 2 犯罪・非行をした者の状況

### (1) 全体概況

#### ア 刑法犯検挙者中の再犯者数・再犯者率※1

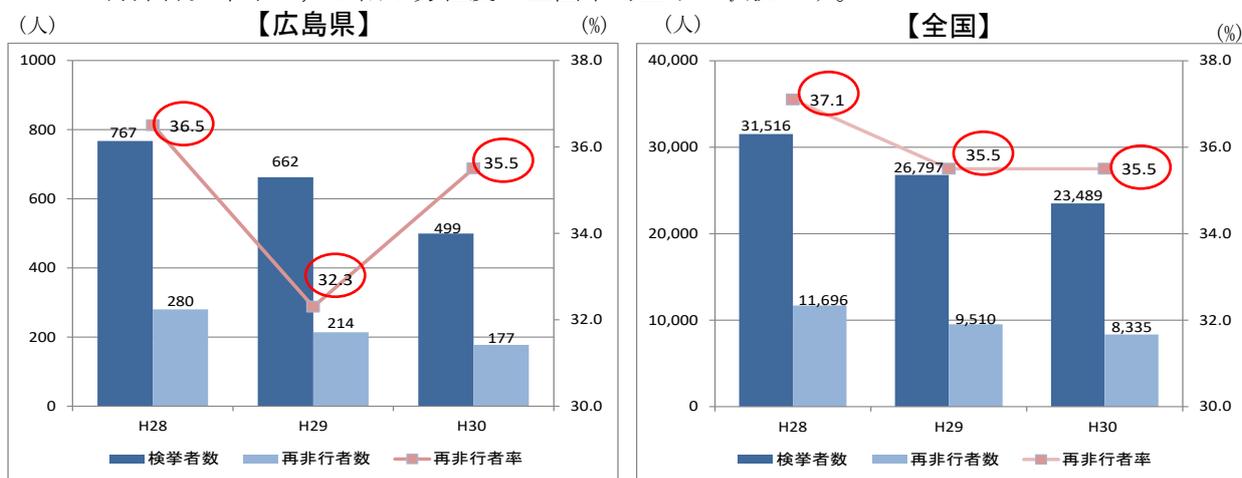
- ・再犯者数は、減少傾向です。
- ・再犯者率は、近年継続して5割を超え、全国平均よりも高い状況です。



※1 出典：法務省大臣官房調査

#### イ 刑法犯検挙者中の再非行少年数・再非行少年率（犯罪少年）※2

- ・再非行少年数は、減少傾向です。
- ・再非行少年率は、3割5分程度で全国平均並みの状況です。



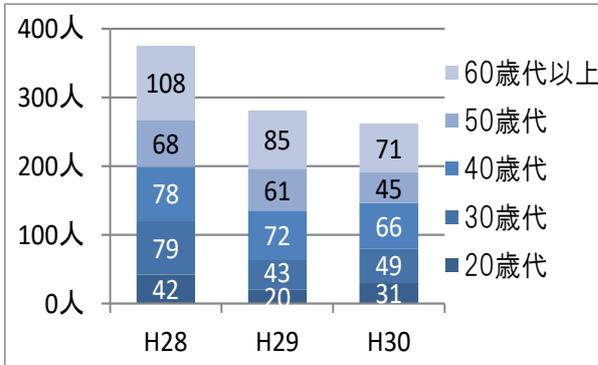
※2 出典：広島県警察本部「令和元年少年補導」  
（14歳以上の罪を犯した少年（20歳未満）の状況）

(2) 成人（刑事施設入所者）の状況※1

新たに刑事施設に入所した者（受刑者）で、犯罪時の住居が広島県であった者の状況。  
 (刑事施設入所者の現状であり、犯罪をするに至った直接の原因を示すものではありません。)

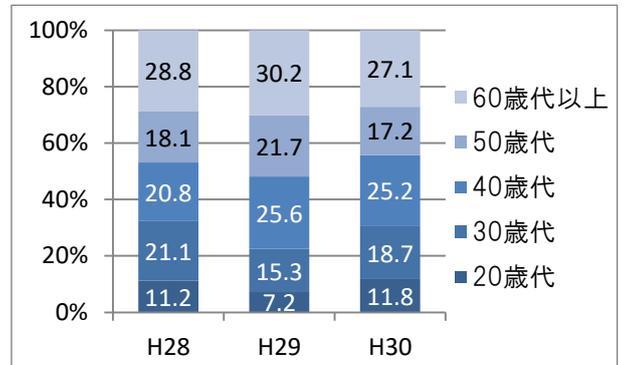
ア 年齢（人数）

入所者数は減少傾向です。



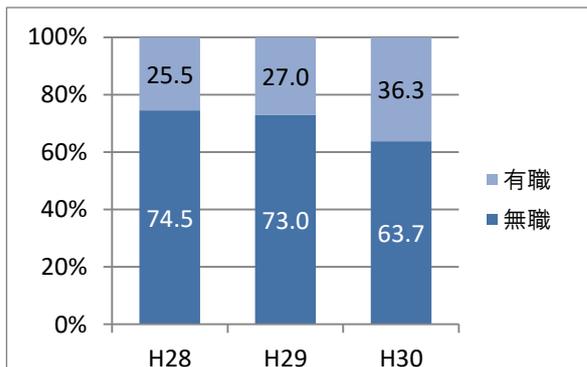
イ 年齢（割合）

60歳以上の割合が、27%～30%で推移しています。



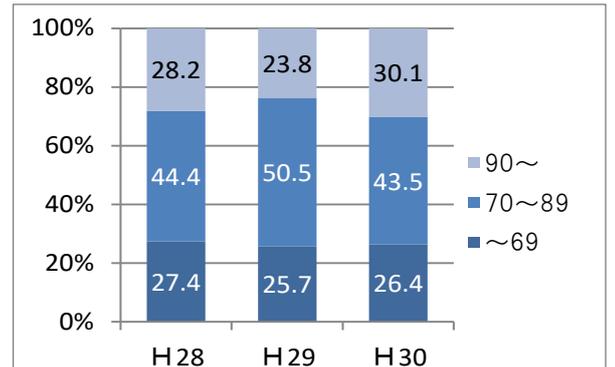
ウ 犯罪時の就業状況

無職の割合が、63～74%で推移しています。



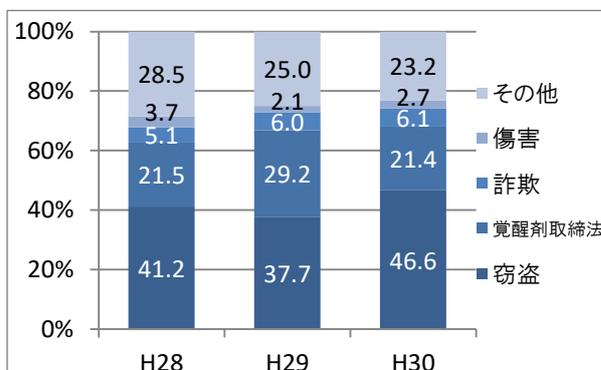
エ 能力検査値（IQ相当値※2）

IQ相当値69以下※3の者が25～27%で推移、IQ相当値70～89（境界知能にある者※4を含む）の者が43～50%で推移しています。



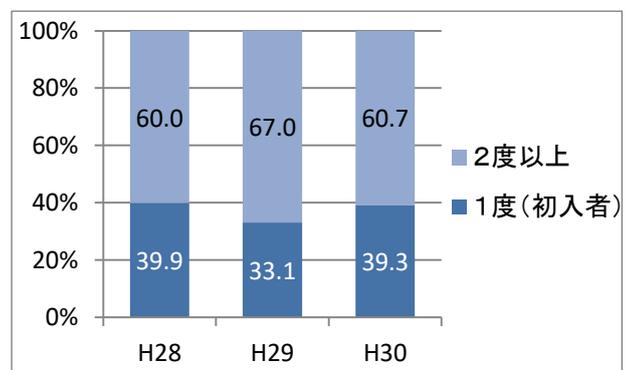
オ 罪名

「窃盗」の割合が、37～46%で推移しており、罪名中、最も高い状況です。

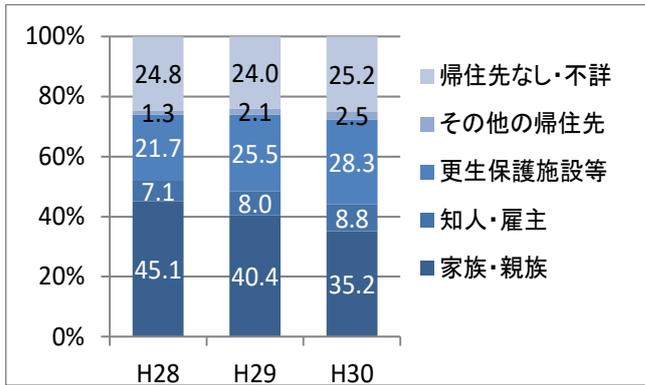


カ 入所度数

2度以上の割合が、60%を超えて推移しています。



キ 前刑出所時の帰住先  
「帰住先なし・不詳」の割合が、20%台で推移しています。



- ※1 法務省矯正局調査を基に県民活動課で作成。
- ※2 刑事施設において実施した能力検査の結果を、IQに相当する値に置き換えたもの。
- ※3 広島県の療育手帳は、こども家庭センターの判定により、IQ75未満の者に対し、社会適応能力を加味した上で交付される。
- ※4 境界知能にある者とは、IQ71～85未満の者を言い、知的障害と判定されないものの、認知機能の弱さ・対人スキルの乏しさなど生活上の困難を抱えるとされる。(広島大学大学院宮口教授講演資料((公財)鳥取市人権情報センター機関紙「架橋」42号36～45頁)に依る。)なお、IQの中央値は、100。

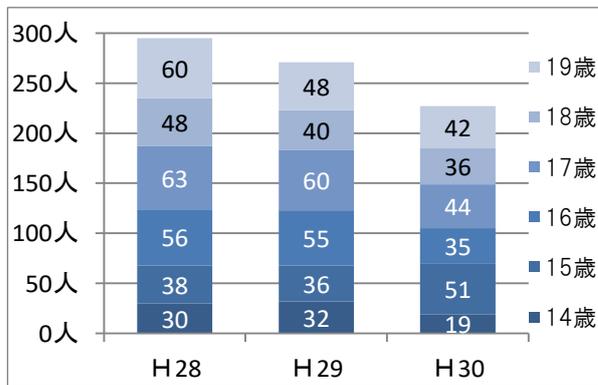
(3) 少年(保護観察処分少年)の状況※

家庭裁判所の審判により、新たに保護観察に付された少年(保護観察処分少年)の保護観察開始時の状況。

(保護観察処分少年の現状であり、非行をするに至った直接の原因を示すものではありません。)

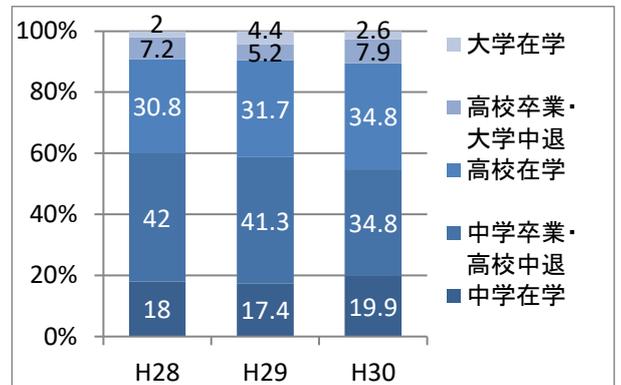
ア 年齢

保護観察処分少年数は、減少傾向です。



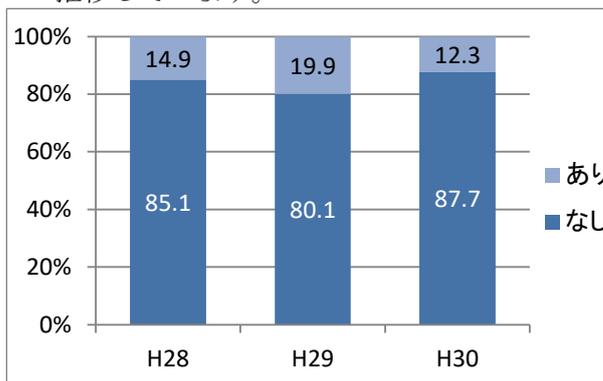
イ 教育程度

「中学校卒業・高校中退」の割合が、34%～42%で推移しています。



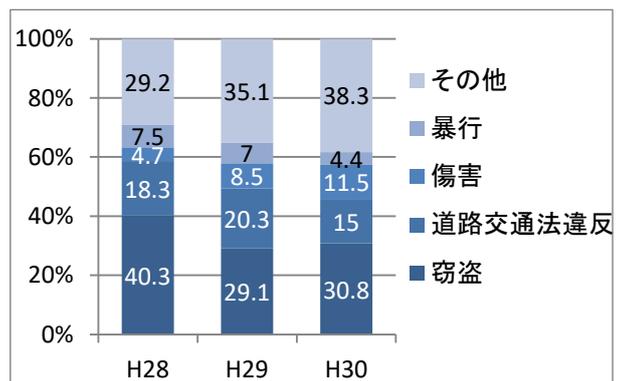
ウ 不良集団関係

関係「なし」の割合が、80%を超えて推移しています。



エ 罪名

「窃盗」の割合が、29～40%で推移しており、罪名中、最も高い状況です。



※ 法務省保護局調査を基に県民活動課で作成